走れ！きぼう GO

No.7

たかつきライブラリーフレンズ　TLF

2022 年 3 月 30 日発行

花の便りがきかれる頃となりました。平素は TLF の活動にご理解ご協力を頂き有難うございます。コロナ禍の生活も 2 年目に突入。そんな中でも TLF の後押しや地域の方々のご協力により、３つの文庫が誕生した事は、実にうれしい出来事でした。今後も本と繋がる企画など、楽しい活動の輪を広げていきたいと思います。

2021 年度 TLF 活動報告

○3.11 おうえん絵本カレンダー販売協力

恒例となったおうえんカレンダー販売、コロナ禍では難しい面もありましたが、J:COM で宣伝も行い、中央図書館での原画展と連動してオレンジフェスタでの久しぶりのイベント参加で多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

○文庫開設支援

移動図書館休止とコロナ禍の影響で市内遠隔地で子どもと本との出会いの場が少なくなったとの相談を受け、高槻文庫連絡会とともに文庫開設の支援を行いました。

○雑誌『子どもと読書』掲載について

雑誌『子どもと読書』１・２（2022.No451）に「高槻の文庫誕生をめぐって」という内容で、TLF のメンバーらが新たな文庫誕生においてお手伝いさせてもらったことや「こゆい文庫」伏見結さんの手記が掲載されました。こゆい文庫をとり巻く生き生きとした子どもたち、特に小学校の先生方の温かい眼差しや地区の方々の協力と熱意を感じました。

＊メンバーの書いた記事の中で、地区小学校や状況について事実と異なる誤ったものがありました。雑誌編集側との丁寧なすり合わせがないまま活字となり、誤解を招く表現になりましたことをこの場を借りて深くお詫び申し上げます。

会報　No.7
目次

p. 1　●ごあいさつ　●2021 年度 TLF 活動報告
p. 2　●コロナに負けない！本のひろば　（高槻の読書ボランティアの取り組み）
p. 3　●垣口朋久氏講演会「図書館は民主主義の砦である」報告
　　●オレンジリボンフェスタ参加報告
p. 4　●こんな本はいかが？　●編集後記

コロナに負けない！本のひろば

がんばる高槻のボランティア、読書を楽しむひろば作りの工夫とアイデア！

家庭地域文庫、続々オープン！

コロナが私たちの生活をいたる所で厳しいものにし、外出も不自由になりました。屋内にとどまって読書という絶好の機会？だったのかもしれませんが、肝心の本の提供場所である図書館の閲覧は制限がかかり、窓口貸出、予約受取だけの状態になりました。

そのような状況下、高槻の図書館空白地域と言われていた所に 3 文庫の誕生という明るいニュースがありました。きっかけは移動図書館の休止でしたが、その誕生にはうれしいことに TLF のメンバーの存在やお手伝いがあります。これからも新しい本のひろばの誕生を願い、微力ながらお力になれたらと願っています。

こゆい文庫

こゆい文庫は、2021 年度子どもゆめ基金の助成を受けて活動しました。

こゆい文庫は 2021 年に誕生し、月に 1 度、樫田小学校で開いています。
代表は、樫田小を卒業した中学生です。
一人ひとりが自由に楽しめる、「濃ゆい」個性に合った文庫にしたいです。

たけのこ文庫

3/9【サンキューの日】無事に開室することができました！岡崎さんが 25 年間続けて来られた文庫を再開出来て、本当に良かったです！
待っていた文庫ファンの方が、ニコニコ笑顔で来てくれました！
みなさん、これからもたけのこ文庫をよろしくお願いします！

毎週水曜日　14 時～
梶原 1－3－3
中井宅（ピッコロ保育園の前）

空想ィ（からおもい）文庫

空想ィ（からおもい一空っぽ（余白）を想う（大切に）一）文庫は西面でオープン。NPO 法人もじゃもじゃはたけこどもえんの活動場所内にあり、自主保育サークルの本読み時間にも活動中。

これからの季節、緑豊かな庭で読書もおすすめ！

安満遺跡公園ではすずらん文庫がえほんの広場、松が丘では野の花文庫が乳幼児おはなし会を開くなど、感染症対策をしながら活動しています。

読み書き困難児童への音訳データ作成

TLF メンバーによる音訳ボランティアの報告です。

――ある日、私は一人の少年に出会いました。彼は読み書きに少し困っている、と聞きました。そして彼からこれらの本（左写真）を読みたい！読んでほしい！という依頼を受けました。学校で読書感想文の課題があり、特に『奇跡のバックホーム』の感想を書きたい、とのこと。早速本の内容を把握し、音訳の環境を整えて録音を始めました。何度も何度も読み直しをしてなんとか夏休み中に出来上がり、手渡すことができました。

今回、このような機会をいただき、また素晴らしい本に出会えて私自身とても幸せな時を過ごすことができました。今後も「この本読んで」に応えられるよう、できる限りの協力をしたいと思っています。これを機に少年とは堅い絆で結ばれ、今もずっと楽しい交流が続いています。

おはなし放送とオンライン人形劇

真上小学校の読み聞かせボランティア「おはなしぱくぱく」は、短いおはなしを録音し、黙食中の給食の時間に放送で流してもらっています。

毎年恒例の人形劇は PTA のオンラインクリスマス会で披露、おたよりで本を紹介したり栞をプレゼントしたりと、工夫を凝らしながら子どもたちと本をつなげる活動を続けています。

参加御礼！　高槻にみんなの図書館をつくる会／たかつきライブラリーフレンズ　コラボ講演会

＊＊「図書館は民主主義の砦である」＊＊　講師／垣口朋久氏

2021 年 10 月 10 日（日）14：00～　クロスパル高槻　視聴覚室

コロナ禍、3 回の延期で 1 年半もお待たせしたにも関わらず、多くの皆様の参加に感謝申し上げます。

垣口氏の「目からウロコ」の高邁なお話に、脳内大いに刺激を受けました。**「図書館は民主主義の砦である」**と言われるように、図書館は市民に、職員に、そして自分にも開かれていることが大切です。今、学校や図書館は自分にとってかけがえのない居場所と思えるものになっているでしょうか。

講演で紹介された工藤和美氏設計の学校や図書館、金沢海みらい図書館など、コロナが収まったらぜひ訪れてみたいものです。

詳しい講演要旨や感想は、つくる会会報「くらしのなかに図書館を」No.134（2022 年 1 月 28 日発行）にまとめられていますので、ご覧下さい。

垣口　朋久　氏

元大阪府立図書館司書

高槻市立中央図書館初代館長

現在「あくび整体塾」主宰

紹介資料

「図書館ハンドブック　第4版」日本図書館協会　1977

村瀬学「いじめの解決　教室に広場を　法の人を育てる具体的な提案」言視舎　2018

工藤和美「学校を作ろう！　子供の心がはずむ空間」TOTO 出版　2004

堀場弘・工藤和美（編著）「図書館をつくる」彰国社　2014

宇田亮一　「吉本隆明　共同幻想論の読み方」　菊谷文庫　2013

2021.11.14(日)　安満遺跡公園でオレンジリボンフェスタが開催され、TLF もフェスタの一端を担いました。

「オレンジリボン運動」とは、シンボルのオレンジリボンを広め、子育てにやさしい社会をつくることで子ども虐待のない社会を目指す市民運動です。2021 年度の認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワークが共催するオレンジリボンフェスタは、三島地域の子育て団体が実行委員会をつくり、

『よりそいたいねん・たのしみたいねん・おたがいさんでぽちぽちいこか』

安心して楽しく子育てができるような地域づくりをテーマに開催されました。

TLF は、古本・2022 年絵本作家が描くおうえんカレンダー・はにたんクッキーの販売を行いました。芝生広場で自由に絵本を手に取ることができる「ブックカフェ」をコロナの影響で実施ができなかったことが唯一残念でした。ブースに立ち止まった親子さんは「絵本売ってる～！」「はにたんクッキーや～！」の歓声に私たちも笑顔で楽しく応対！当日は中央図書館で「おうえんカレンダー原画展」もありメンバー総動員となりましたが、

クッキー200 個完売！

おうえんカレンダー、古本販売も好調で心地よい疲れを感じた一日でした。

こんな本はいかが？

児童文学研究家、司書、教員、文庫、読み聞かせボランティア――目利きの揃う TLF からのオススメ！

『100 万回死んだねこ　覚え違いタイトル集』
福井県立図書館（編集・著）　講談社

覚え違いの面白さもさることながら、その僅かな情報からよくお目当ての本を探り当てられるものだと司書さんたちの知識と対応力の凄さに唸る！やっぱり司書は図書館になくてはならない専門職ですね。

ヤンマガ KC スペシャル
『税金で買った本』① ②（以下続刊）
ずいの（原作）系山冏（漫画）　講談社

うわっ、キャッチーなタイトル！（笑）
小学校以来図書館にはご無沙汰していたヤンキーくんがバイトに入り、バックヤードから眺める図書館の風景。フムフム頷き、知の砦への愛と理解が深まる！？　SNS でも今話題のコミックです。

『セカンドハンドの時代
「赤い国」を生きた人びと』
スヴェトラーナ・
アレクシエーヴィチ（著）
松本妙子（訳）　岩波書店

ノーベル賞作家スヴェトラーナ･アレクシェーヴィチは、1948 年ウクライナ生まれ。彼女の『セカンドハンドの時代』は、ロシアの民衆の世代ごとの歴史を伝えています。「反革命分子の子」としてシベリアの収容所で生まれ育った、母の世代。子の世代は、生死の境をさまよっている幼い我が子のベッドの脇で、出版されたばかりのソルジェニーツィンの『収容所群島』をむさぼり読む自分に呆れながら。そして孫の世代は、悩みつつ、結局は家族ぐるみでカナダへの移住を選んだ。ずっしりと心と両肩にかぶさってくる叙事詩のような聞き書きです。

『ここがわたしのねるところ
ーせかいのおやすみなさいー』
レベッカ・ボンド（文）
サリー・メイバー（作画）
まつむらゆりこ（訳）　福音館書店

暑い国、寒い国、砂漠地帯など世界の子どもたちのベッドタイムの様子が刺繍工芸で紡がれています。戦禍の子どもたちに安心で穏やかな眠りが１日も早く訪れることを祈ります。

編集後記●TLF ホームページ作成中。TLF 会報バックナンバーはホームページに掲載予定です。紙ベースで必要な方は事務局までご連絡ください●図書館のイベントなどが早く元通りに開催されるようになるといいですね。手洗い消毒マスク着用に協力しましょう●図書館を応援したい熱意とアイデアをお持ちの方の参加、寄稿お待ちしています●早くコロナも戦争も収まって、平和な日が来ますようにと祈りつつ

2022 年 3 月 30 日　発行
編集・発行　たかつきライブラリーフレンズ（ＴＬＦ）
事務局　高槻市白梅町 5-15-1707　宮島方

最新情報は Facebook をチェック！
問い合わせはメッセンジャーから
どうぞ